

【2018年度 理事長所信】

一般社団法人 下妻青年会議所
第40代 理事長 小口 泰永

はじめに

何不自由なく甘やかされながら育った私は、人の気持ちもわからずに、ただ自分のことだけを考え自分の欲求だけを表に出してきた。しかし、何も得ることができず、不満と不安で押しつぶされてしまいそうになる日々を過ごしていた。18歳の時東京へ憧れ、何の目的もないまま生活をし、日々を漠然と過ごしていた中、実家から連絡があり、会社が不渡りを出してしまい倒産するかもしれないから帰ってきて助けてくれと連絡があった。今まで会社がそんな状況でいたなんて聞いたこともなかった私は、気が動転しながらも帰郷し、会社の為に一生懸命仕事に取り組んできた。現場で作業をしながらも経営面に携わるようになり、自社のずさんな経営管理に驚愕もした。わからないことばかりで、毎日悩み、現実から逃げるように毎晩お酒を飲み、外に繰り出していた。そんな折、先輩からの誘いで青年会議所に出会うことになった。今まで経験したことのない組織だったので最初は戸惑いながらも、徐々に慣れ親しんでいく中で自分の不甲斐無さに気付かされ、自分にとっての人生の歩みを大きく変えることができた。青年会議所では今まで様々な役職を拝命させていただき、自分にできる以上のことに挑戦し経験を得ることで、自分の存在意義を見つけることができたことを、心から感謝している。

人はなぜ存在するのか？

自分にできることは何なのか？

生まれたときから運命というものには決まっているのかもしれない。ただ目的もなく生きて死ぬことを選ぶ選択もあるのかもしれない。しかし、私は何も行動しないことが運命だとは思わない。自分という存在を認め、そして本当の自分と向き合った時こそ、己の限界を知り、それを越えることができるのだと思う。悩みながらも常に成長を求め、青年会議所運動を全うすることで、未来を切り拓くために全力を尽くすことができるのであろう。すべての事に感謝をすることができる人間へと成長するために、尽力することが私の人生だと問う。

40周年に関する事業の展開

本年度、下妻青年会議所が創立40年という節目の年を迎え、今までの先輩諸兄が作り込んできた歴史を学び、下妻青年会議所の意義をもう一度考える機会が必要である。創立40年という歴史の深さを認識し、創立50年までの方向性を打ち出し、その後永続的に

存続できるLOMとなれるような長期ビジョンを創り出すことで、新たな下妻青年会議所の歴史の創造へと導く。そして、時代と共に培ってきた存在意義を見つめ直し、今の時代に沿った事業を構築することで、創立40年の歴史を輝かせることのできる今までにない新たな事業を展開する。新たな事業を展開することで、今の私たちの暮らす街の問題点を洗い出し、地域の活性化に繋げることが必要である。

隠れている地域の魅力発信

この地域には魅力を発信できるまだ見ることのない宝が数多くあると思う。地域経済の発信となる源を培い強化することで、未来を見据えた経済成長へと繋げることができると考えている。未来を担うであろう人財に社会起業家としての魅力を伝えることで、これからの時代に沿った地域の発展へと繋げることができると考えている。そして、例年行っている継続事業も、下妻青年会議所一団体だけが行うことだけを考えるのではなく、地域に必要な事業として委託を考えるのも必要があるのではないかと考えることが多々ある。組織にとっても地域にとっても有効かつ必要性がある考えを持っていただき、今までとは違う目線で物事を考え提案することにより、最も効果的な発信ができると確信している。

地域に必要な会員拡大の展開

地域の未来を担う青年達が青年会議所に所属していない現状がある。なぜ、地域のために尽力をしている団体に入らないのか？下妻青年会議所として問題を抱えているのも現実にはある。下妻青年会議所に所属するメリットを理解し、各々が意識を向上させ行動を起こすことが必要だと感じる。そのためには、年代・職種ごとの問題を抽出し、同じ青年としての高い志を持つことが必要だ。40歳までしかできない青年会議所運動の経験は計り知れない。自分にとって大切な時間を費やすことができる組織とは何なのかを伝える必要がある。同じ志を持つ青年が運動を通し経験することで、目には見えない何かを感じることができよう。

未来へ繋がる次世代育成の展望

日本人は国際的にも学業成績は上位であるにもかかわらず、「自分に自信があるか」という問いに「ある」と答えた者の割合は最下位であり、テレビを見る時間が各国中でも最も長く、体を動かす時間は平均を下回っているという実態があるそうだ。私も今の子供たちの学力はとても優秀だと思う。しかし、判断力や表現力が十分に身につけていないと感じるときがある。それは、屋内で遊ぶことがほとんどで自然体験や生活体験等が少なく、人やものに関わる力が低いからだと感じる。また、目的・目標の定かでない社会の中で甘やかされて育った結果、叱られることに慣れておらず、目的意識に欠けているところが原因になっているのだと思う。子供は親の姿を見て育つ。自分たちが見本となる教育者へとになれるよう、日々の子供たちとの接し方にも問題視していかないといけない。自然体験や生活体験等を充実させ、自分で考え、自分で判断できる力を育てるために、子供たちとともに学べる機会を創り出す必要がある。

組織の魅力発信及びスムーズな組織運営

創立40周年と茨城ブロック会長輩出LOMとしての重責を担っている。組織の中核をしっかりと固めないと組織が成り立つことは難しいであろう。そこで、総務関係の委員会を創設することにより情報の共有、発信をしっかりとおこない、事務局と連携して各種会議の設営を滞りなく進めることとする。メンバーのベクトルを合わせ、意識向上を図りながら、組織運営の大切さをメンバーに学んでいただきたいと考えている。そして組織運営には、SNSを通して各種情報の発信をおこない、対内だけでなく対外にも魅力を最大限伝えていくことが重要だ。財務・コンプライアンスに関して今日までの認識の低さから、誤解を招く事態に発展してしまったこともある。組織としての責任を強く持ち、さらなる高みに進めるよう邁進しよう。

茨城ブロック協議会との密な連携

本年度は茨城ブロック会長として、下妻青年会議所から平塚一芳君を輩出することにより、茨城ブロック協議会との更なる連携が必要となる。個人的に私は茨城ブロック協議会委員長として出向させていただいた歴があり、その時の学びは計り知れないものであったと感じる。出向することにより大きな学びを得られることができ、とても感謝している。だが、下妻青年会議所として今まで39年という過去の歴史の中で、一度も経験がないブロック会長輩出をすることで何を得られるかは未知数である。しかし、ピンチだからこそそのチャンスだと思う。ブロック会長を全力で支援し、茨城県内各地会員会議所の見本となれるような組織を目指すことにより、メンバーの意識が向上し、青年会議所メンバーとしての責任と誇りを持ち続けることができると確信している。

結びに

我々は、宇宙という大きな存在の地球という生命体の中で生かされている。今日までの歴史があり、祖先がいて両親というかけがえのない存在のおかげで、この世に生を受けることができているのであると思う。なぜ人生は一度しかないのか？限られた時間しか生きることができないのか？時間は平等であり、費やしてきた時間は戻ってくることはない。タイムマネジメントはとても重要であり、如何に投資をできるかだと思う。常に己を律し、自己鍛錬を行うことが、青年として求められることであると考え。己の限界を知り、限界を超えようと挑戦することが幸せへの第一歩だと思う。自分を信じ、共に成長する仲間と行動することで、かけがえのない時間を手に入れることができるのだと信じている。

40歳までしか挑戦ができないのであれば、全力で挑戦しよう

すべての事に感謝をし、我が人生を全うすることを誓う